



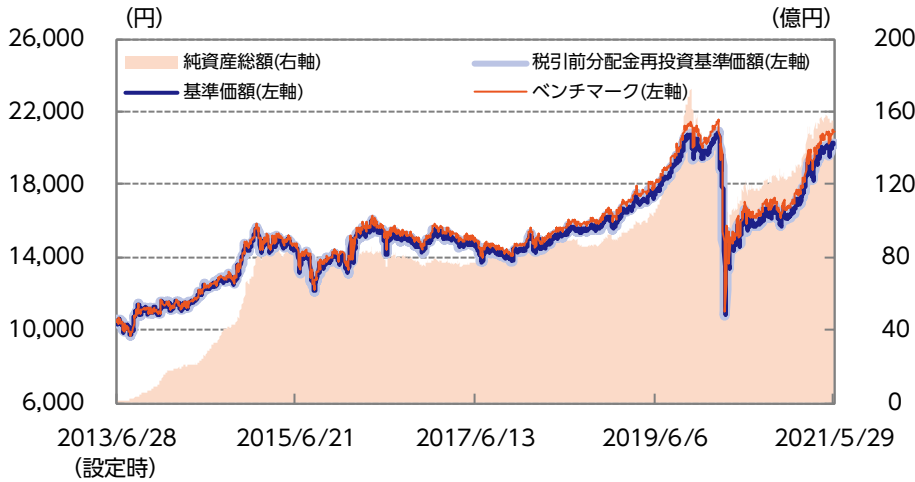
<購入・換金手数料なし> ニッセイJリートインデックスファンド

追加型投信／国内／不動産投信／インデックス型

マンスリーレポート
2021年5月末現在

運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	20,224円
前月末比	135円
純資産総額	154億円

分配の推移（1万口当り、税引前）

第2期	2015年5月	0円
第3期	2016年5月	0円
第4期	2017年5月	0円
第5期	2018年5月	0円
第6期	2019年5月	0円
第7期	2020年5月	0円
第8期	2021年5月	0円
直近1年間累計		0円
設定来累計額		0円

基準価額の騰落率（税引前分配金再投資）

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	0.7%	7.9%	24.6%	26.1%	32.9%	102.2%
ベンチマーク	0.7%	8.2%	25.2%	26.9%	34.7%	109.3%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金（税引前）を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。

※収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります（個人受益者の場合）。

※ファンド騰落率は分配金（税引前）を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りとは異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

※ベンチマークは東証REIT指数（配当込み）としています。東証REIT指数（配当込み）は設定日前日の終値を起点として指数化しています。

※東証REIT指数は、東京証券取引所の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証REIT指数の商標または標章に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、東証REIT指数の指数値の算出・公表の方法の変更・停止等を行うことができます。また、東京証券取引所は、東証REIT指数の指数値の正確性、完全性を保証するものではなく、その算出・公表の誤謬・遅延等に関して責任を負いません。東京証券取引所は、当商品に関する義務を持たず、当商品の運用成績に関して一切責任を負いません。以下同じです。

マザーファンドの状況

組入上位10銘柄

（銘柄数：61）

組入比率

	銘柄	比率	投資対象	比率
1	日本ビルファンド投資法人	7.0%	不動産投資信託証券	98.6%
2	ジャパンリアルエステイト投資法人	5.9%	短期金融資産等	1.4%
3	GLP投資法人	5.2%		
4	野村不動産マスターファンド投資法人	5.0%		
5	日本都市ファンド投資法人	4.9%		
6	日本プロロジスリート投資法人	4.8%		
7	大和ハウスリート投資法人	3.9%		
8	オリックス不動産投資法人	3.6%		
9	ユナイテッド・アーバン投資法人	3.0%		
10	アドバンス・レジデンス投資法人	3.0%		

※対純資産総額比

※対組入投資信託証券評価額比

本資料に記載されている投資リスク、ファンドの費用等を必ずご覧ください。
<21-TD-M260>

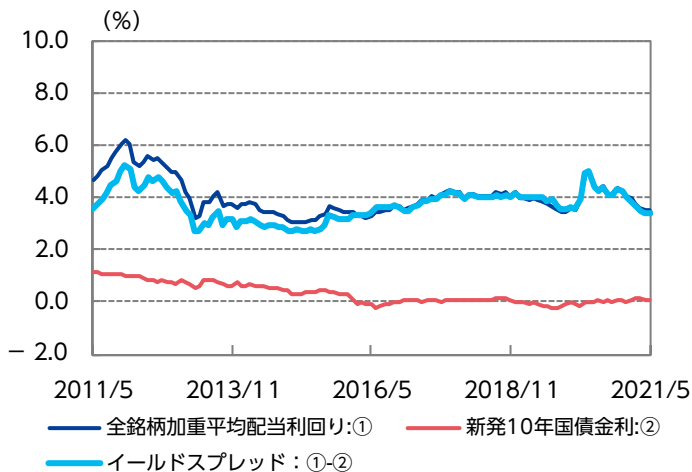
マーケットの状況

東証REIT指数（配当込み、配当除き）の推移（直近5年間）



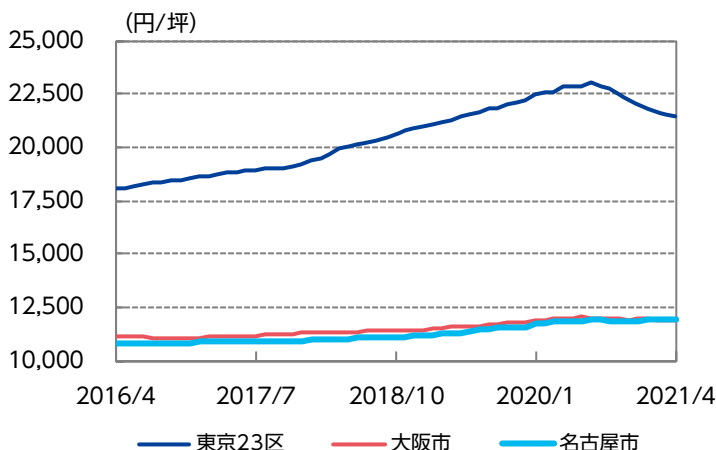
※ブルームバーグのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

J-REIT配当利回りと長期金利の推移（直近10年間）



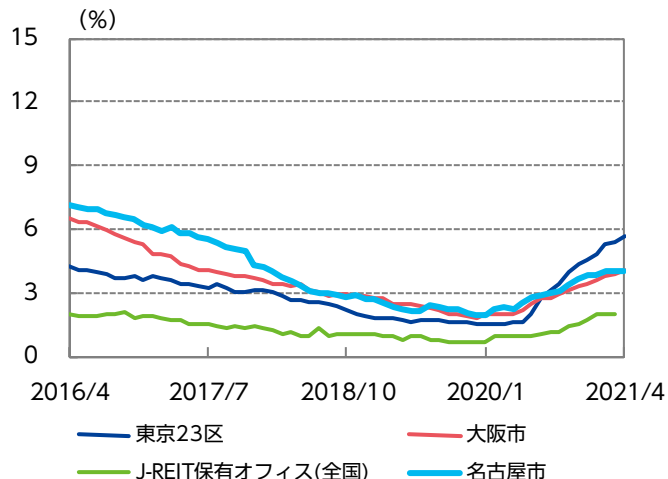
※QUICKのデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。

募集賃料の推移（直近5年間）



※ブルームバーグのデータ、投資信託協会のデータおよび三鬼商事のデータをもとに、ニッセイアセットマネジメントが作成しています。
※マンスリーレポート作成時時点で取得可能なデータを使用しています。

空室率の推移（直近5年間）



当月の市況動向

当月におけるJ-REIT市場（東証REIT指数配当込み）の騰落率は+0.71%となりました。当月末時点におけるJ-REITの予想配当利回りは+3.48%（時価総額加重平均）、10年国債金利（長期金利）は+0.08%となり、イールドスプレッド（配当利回りと10年国債金利の差）は約+3.40%です。

J-REIT市場は上昇しました。月の前半は、米長期金利の先高観測や国内での緊急事態宣言の期間延長を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことで下落しました。月の後半は、長期金利の水準が安定して推移したことや新型コロナウイルスのワクチン接種進展による経済正常化期待が高まったことを受けて反発上昇し、前月末比で上昇して月を終えました。

当月におけるセクター別の動きとしては、ホテルセクターが相対的に堅調な推移となった一方、オフィスセクターが相対的に軟調な動きとなりました。

当月における日銀のJ-REIT買い入れはありませんでした。

◆最新のマーケット情報は、ニッセイアセットのホームページ「マーケット情報」をご覧ください。

<https://www.nam.co.jp/market/forecast/jreit/index.html>

ファンドの状況

国内の証券取引所に上場（これに準ずる市場で取引されているものを含みます。）している不動産投資信託証券を実質的な投資対象とし、東証REIT指数（配当込み）の動きに連動する投資成果を目標とします。当月末の税引前分配金込み基準価額はJ-REIT市場の動向を受けて、前月末比+135円となりました。

マーケット環境

三鬼商事が発表した4月時点における都心5区（千代田・中央・港・新宿・渋谷区）の平均空室率は5.65%となり前月比0.23ポイント悪化しました。東証が毎月発表している投資部門別の売買状況によると、4月における主な買い越し主体は証券自己部門、主な売り越し主体は投資信託部門でした。

今後の見通し

定元のJ-REIT市場は、新型コロナウイルスの感染拡大に対する懸念が残る一方、REIT各社の決算内容が全体的に堅調なことを受けて上昇基調で推移しています。今後のJ-REIT市場は、引き続き新型コロナウイルスの感染者数やワクチン接種の進展に一喜一憂することが見込まれます。また、リモートワークの浸透を契機とした企業のオフィス利用に関する意思決定の変化や新型コロナウイルスの感染拡大が収束した後の世界的な金融政策の動向に投資家の注目が集まることが想定されます。

REIT各社の取り組みとしては、投資口価格の上昇に伴う資本調達コストの低下を活用した積極的な外部成長（物件取得等の資産規模拡大を通じての収益拡大）、保有物件の質的向上や資産価値顕在化を目的とした物件入れ替え、中長期的な事業の継続性に着目したESG（環境・社会・企業統治）への積極的な対応を実行するREITが増加しています。不動産賃貸市況の先行きが不透明な中で、各REITの不動産を運営する能力や配当可能な利益成長を維持する取り組みの差が顕在化する可能性があります。新型コロナウイルスの影響により事業環境が変化する中ではありますが、今後も投資主価値向上に寄与する各社の自発的な取り組みの強化が期待されます。

景気や不動産賃貸市況の先行きはいまだ不透明感が残るものの、相対的に業績の安定性や財務面の健全性が高く、魅力的な配当利回り水準にあることに加えて、投資主価値向上に対する意識が高まっているREITには長期的な資金流入が期待できると考えます。

ファンドの特色

- ①国内の金融商品取引所に上場している不動産投資信託証券（以下「J-REIT」といいます）に投資することにより、東証REIT指数（配当込み）の動きに連動する成果を目標とします。
 - ②購入時および換金時の手数料は無料です。
- ※東証REIT指数は、東京証券取引所に上場する不動産投資信託（Real Estate Investment Trust）全銘柄を対象とした株価指数です。東証REIT指数は、株式会社東京証券取引所（以下「株東京証券取引所」といいます）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウおよび東証REIT指数の商標または標章に関するすべての権利は株東京証券取引所が有しています。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。また、東証REIT指数（配当込み）の動きに連動することを目標に運用しますので、東証REIT指数（配当込み）の動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。**

主な変動要因

不動産投資信託（リート）投資リスク	保有不動産に関するリスク	リートの価格は、リートが保有する不動産の価値および賃貸料収入の増減等、また不動産市況や景気動向等の影響を受け変動します。リートが保有する不動産の賃貸料や稼働率の低下、また自然災害等によって保有する不動産に損害等が生じた場合、リートの価格が下落することがあります。
	金利変動リスク	リートは、金利が上昇する場合、他の債券の利回り等との比較から売却され、価格が下落することがあります。また、金融機関等から借入れを行うリートは、金利上昇時には金利負担の増加により収益性が悪化し、リートの価格が下落することがあります。
	信用リスク	リートは一般の法人と同様に倒産のリスクがあり、リートの経営や財務状況が悪化した場合、リートの価格が下落することがあります。
	J-REITの税制に関するリスク	一般に、J-REITの発行者には課税の実質免除措置が適用されますが、税法上の一定の要件を満たさない場合、当該措置は適用されず発行者の税負担が増大し、J-REITの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。
	リートおよび不動産等の法制度に関するリスク	リートおよび不動産等に関する法制度（税制・建築規制等）の変更により不動産の価値および収益性が低下する場合、リートの価格が下落することおよび分配金が減少することがあります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。	

分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。
決算・分配	決算日	5月12日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	無期限（設定日：2013年6月28日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」の適用対象です。NISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時	購入時手数料	ありません。
換金時	換金時手数料	ありません。
	信託財産留保額	ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

毎日	運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に 年率0.275%（税抜0.25%） 以内の率をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。 ○ファンドが実質的な投資対象とする不動産投資信託証券（J-REIT）は、市場の需給により価格形成されるため、不動産投資信託証券の費用は表示しておりません。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.0011%（税抜0.001%）をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・手数料	組入価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

❗ 当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。

❗ 詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	ファンドに関するお問合せ先 ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00~17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合があります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取扱販売会社名	金融商品取引業者	登録金融機関	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
岩井コスモ証券株式会社	○		近畿財務局長(金商)第15号	○		○	
Eイチ・エス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第35号	○			
auカブコム証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	
株式会社SBI証券	○		関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
岡三オンライン証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第52号	○	○	○	
GMOクリック証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第77号	○		○	○
東海東京証券株式会社	○		東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
フィデリティ証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第152号	○	○		
ほくほくTT証券株式会社	○		北陸財務局長(金商)第24号	○			
松井証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	○		関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社京都銀行		○	近畿財務局長(登金)第10号	○		○	
ソニー銀行株式会社		○	関東財務局長(登金)第578号	○		○	○
PayPay銀行株式会社		○	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
足利小山信用金庫		○	関東財務局長(登金)第217号				